

インドのゴミ問題



今月の動画はインドを紹介しました。
お！インド！中東じゃないんだ！と思った人も多いかと思います。

中東の国々は日本人にとって馴染みが薄く、情報も少ないので関心が少なくなりがちかと思います。

インドはどうでしょう？

インドは中東の国々と違ってアジア圏、地図でインドを指せる人も多いかと思います。私たちにとって馴染みの深い国インドですが、インドに関する報道番組を見た記憶はありますか？

時折、インドの旅みたいない感じのドキュメンタリー番組が放送されたりしますが、インドも中東の国々と変わらず報道が少ない国です。

インドと言えば、人口が多い国、ヒンドゥー教の国、貧困、カースト制度があった国。そんな感じのイメージでしょうか。かつてはバックパッカーが卒業旅行で行く「冒険旅行の」憧れの国でもありました。

そんなインドですが、観光で行く首都デリーやムンバイなどの大都市と地方都市、北部と南部では全く違った顔を見せてくれます。

近年、インドのゴミ問題が大きな問題となっていてインドのゴミ問題取材に行きました。その初日、偶然、ヒンドゥー教のお祭りをやっていて、撮影してもいいですか？と聞くと気軽に許可してくれて、撮影だけでなく、一般の人たちに配っている食事くれました。中東のイスラム教と同様にヒンドゥー教にもおもてなしの文化があります。

2001年1月26日、インドのグジャラート地方で大地震が起きた。

僕はアフガニスタン取材の予定があり、パキスタンのビザを取得していた、インドにも行かなければと思い、インド大使館を訪れて通常1週間必要なビザをその場で発行してもらい、インド自身の取材に向かった。見開きページの左側にパキスタンのビザ、右側にインドのビザが貼られるという奇跡。

ペットボトルの水2本とビスケット2箱、1週間くらいは持つかと思って被災地に向かった。

被災者もジャーナリストも関係ない

1月のインドはとても寒く、NGOの食糧備蓄テントに泊らせてもらった。

インドのシーク教の人たちが炊き出しに来ていて、そのシーンも撮影させてもらった。

「あなたもご飯食べていきなさい」と言ってもらい、僕は被災者じゃなくジャーナリストなので、とお断りしたら、「地震の後、大変な場所に来てくれている人に被災者もジャーナリストも関係ないです、みんな同じ人ですから、お食べなさい」と言ってくれた。

ちょっと涙ぐんでしまった。



難民問題よりも日本メディアが取り扱いたくないもの

前回、東日本大震災の動画をアップしましたが、東日本大震災では炊き出しの食事は被災者のみで、復興支援に来ている人は食べられないような現状があった。

日本人が途上国として下に見ている国々から僕たちが学ぶことが多いと思う。

そんな、おもてなしの国インドですが、カースト制度という身分制度があり、1950年のインド憲法施行時に廃止され、カーストによる身分差別は法律で禁止されているのですが、残念ながら現在もカースト制度の影響は残っています。

煌びやかなビルが立ち並び、ITで発展していくインド、都会のすぐ傍にあるゴミ置き場で生まれ育ち、難民以下の生活を強いられている人がいます。

「難民」は国際問題なので国連の支援が入りますが、カースト制度によるインドの貧困問題はインドの国内問題なので国連の支援が入りません。



インドのゴミ問題、カースト制度のことは難民問題以上に日本のメディアが扱いたくないテーマになってしまっています。

難民は戦争や圧政によって生まれますが、インドの貧困層は生まれた立場で決まっています。

TRRでしか報道できないインドの問題。

今回の動画はゴミ置き場で暮らす人たち取材した動画をアップします。

カースト制度があり、通訳（カーストの高い人）を連れて行くと本音が聞けないので、僕が1人で潜入取材した動画です。次回動画をお楽しみに。

講演会情報

2025年4月28日（月）

【スマホで簡単！写真教室】14:00～16:00

【定員】5名

【場所】PlanT 日野市多摩平の森産業連携センター

東京都日野市多摩平2-5-1

2025年5月31日（土）

【講演会】14:00～16:30

【定員】40名

【場所】福岡開催 予定（決定次第お知らせ）

編集
後記

経済発展の裏側に残されたもの

今月のテーマは、インド。知っていることは教科書で習った表面的な情報で、内部の深い情報は、やはり知らないことばかり。ネットで検索すれば知ることはいくらでもあるかもしれないが、積極的に興味を持って調べている人がどれだけいるだろうか。

かつて、インドに行けば「価値観が変わる」、「自分探しの旅の聖地」なんて言われ方をしていたような。

今ではIT産業分野において、目覚ましい発展を遂げているインド。その裏側に残された問題は、報道されることがない。経済発展に光が当たれば当たるほど、その裏側にある影も大きくなっている。

TRRでは、そこに光を当てる存在になれたらと思う。

The Real Report 坂田兼一

The
Real
Report

発行元
問い合わせ先
発行責任者

合同会社G&G Marketing TRRサポートチーム
support@giveandgiven-marketing.com
坂田 兼一